

## じょうもん 縄文土器 (ふかな 深名遺跡【富浦地区・深名】出土)

縄文土器は、歴史の教科書の最初の方で登場するので見覚えがあることでしょう。歴史の教科書の中では、「厚手で、低温で焼かれたため黒褐色」「表面に縄目のような文様が付けられていることが多い」(出典：東京書籍『新編新しい社会 歴史』)と書かれています。しかし縄文土器に施されている文様は実に多様です。



粘土紐をぐるぐる渦巻きの模様貼り付けたり、弧を描くように沈線を施したりします。茨城県の周辺では、貝殻を押し当てて文様を施すものもあるなど地域によっても文様は様々です。

左の写真の縄文土器、上部に丸い穴が二つみえます。これは補修した痕跡で、割れた土器に穴をあけて何かで結んで再利用していたと考えられています。縄文時代の人々は壊れたものも修理して大事に使っていたようですね。